

Shinsei
2023 Vol.44

2023年2月14日 発行

医療法人 厚生会 道ノ尾病院「新星」Shinsei編集部
〒852-8055 長崎市虹が丘町1番1号
TEL 095-856-1111 FAX 095-856-4755

新星

題字：松本 寿美子



CONTENTS

- 2 令和5年 新年のご挨拶～会長・理事長兼院長より～
- 3 内科医 北村先生からお礼のご挨拶
- 4 第74回 九州精神神経学会／第67回 九州精神医療学会の報告
- 5 第16回 日本腎臓病薬物療法学会に参加して
- 6 第14回 満足度調査結果報告
- 7 デイケアの行事について「秋のお茶会」「あぐりの丘まで秋桜を見に」
- 8 免疫力を上げて冬を乗り切りましょう！

基本理念 患者第一主義

基本方針

- 挨拶と笑顔をもって皆様（患者・家族）に接します
- 疾病や治療に対して十分な説明と同意に基づき、患者本位の医療を提供します
- 患者の権利を認識し、尊重します
- 地域における責務を認識し、開かれた病院を目指します
- 職員研修を行い、常に研鑽に努めます
- 健全な病院経営に努めます
- 患者の社会復帰に努めます

新年のご挨拶

会長 松本 純隆



新しい年を迎えるにあたって皆様にご挨拶させていただきます。

旧年中は皆様方に格別のご支援をいただきありがとうございます。これまで以上

に地域のために貢献できる道ノ尾病院、虹が丘病院でありたいと考えております。

令和4年を振り返りますと、昨年に続き新型コロナウイルス感染症に振り回された1年であったと思います。夏から秋にかけての第7波の感染拡大の際には、県内の感染者数が過去最高となり、両病院でも感染者への対応や、職員の皆さんの休みが増えたりして苦慮いたしました。特に感染者が増えた時期に入院の制限をしたりしてご迷惑をお掛けしましたこととお詫びいたします。

令和4年12月の時点では、第8波を迎え国は行動制限を少なくして、旅行の支援を行うなど経済活動の再開に向けて大きく方針転換を図っているようです。

その中でワクチン接種だけは積極的に受けるように

呼び掛けています。虹が丘病院においてはBA4、BA5対応ワクチンの接種を行なっていますし、道ノ尾病院においては、副反応の少ないノババックワクチンを県内で唯一接種を継続しております。今後は基本的な感染対策を行いつつ、通常の医療ができる状態に戻れるのではないかと願っております。

私事になりますが、昨年6月に理事長職を辞退させていただき、後任の理事長として道ノ尾病院院長の松本一隆が就任させていただきました。今後の医療法人厚生会の運営を松本一隆、クリニック院長松本俊二、虹が丘病院院長富永雅浩が中心となって更なる発展を図っていくものと希望しております。なお、わたくしは会長として、患者様のため、病院発展のため、微力を尽くして参りたいと考えております。今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

令和5年も皆様方にとって素晴らしい1年であることを心から願っております。医療法人厚生会道ノ尾病院・虹が丘病院さらにみちのおメンタルクリニックや各事業所をよろしく願いいたします。



新年の挨拶、並びに医療法人厚生会理事長就任の挨拶をさせていただきます。

令和4年6月に、前理事長松本純隆よりの命にて理事長職に就任致しました松本一隆と申します。初代理事長松本新が昭和62年10

月に死去後、松本純隆が2代目理事長として、道ノ尾病院、虹が丘病院、その他法人内事業所等の責任者として、35年余り従事してきました。その間、病床は当時の785床を維持しながらも、デイ（ナイト）ケア、福祉ホーム、サテライトクリニック（みちのおメンタルクリニック）、訪問看護ステーション、相談支援事業所、就労継続支援事業所など数か所の事業所を立ち上げてきました。さらに高齢者のためのサービス付き住宅、有料老人ホームなども開設しました。現在、道ノ尾病院、虹が丘病院両病院を中心に、前記事業所と連携しながら、多くの職員の皆様、地域医療機関、関連事業所、地域の皆様の御理解、御協力のおかげをもちまして、現在があります。前記しましたように、道ノ尾病院は、785床の大規模な精神科病院ですが、この10数年の間で、社会のニーズに少しでも答え

理事長兼院長 松本 一隆

るために、物忘れ外来、それに伴う認知症対応病棟への改装、成人期ADHD外来、治療抵抗性統合失調症に対するクロザリル治療、m-ECT治療、アルコール依存症～減酒外来などを立ち上げてきました。これらの専門的治療は、限られたマンパワーによるもので、ニーズに対し十分ではないのかもしれませんが、今後、精神疾患を患った方々のお役にたてるよう維持し発展していけるよう努力していきたいと思っております。一方で、2020年初頭に、新型コロナウイルス感染が始まり、感染の波を繰り返しながら、昨年2022年も終息に至ることはなく、ちょうど3年が経過しようとしています。その間、株の変化、ワクチンが打てるようになり、3年前とは違った見方をしていると思っております。生活もwithコロナという流れで、一昨年に行われた緊急事態宣言のような行動制限はせずに、感染対策と社会活動を両立するという方向に変わってきています。ただ、いつになったらマスクをとって歩けるのか、コロナ前のように感染を気にせず行動できるものか、国民も私たち医療関係者もさすがに心身ともに疲労してきていると思っております。何とか今年こそは、コロナが終息してほしいと願っています。今年も御指導のほどよろしくお願い致します。

退職に際して

平成20年7月30日、母が脳梗塞・認知症のため道ノ尾病院に入院させていただくことになり、その日から私は見舞客として週に1、2回仕事帰りに病院を訪れていました。準夜帯の忙しい中でも、看護師さんにはいつも丁寧に應對してもらい、とても安堵したことをよく覚えています。母も、真心のこもった治療と看護により日に日に回復していき、そして、そのことが1年半後に私が道ノ尾病院の一員に加えていただく契機となりました。

人の痛みは精神のものであれ肉体のものであれ、全く固有のもので、それを理解するには懸命に相手のことを思いやるしかない、医療に携わる者の根幹にあるべきものは、人の痛みに少しでも近づく努力と共有しようとする心を持ち続けることだと私は信じています。

長い間、私が道ノ尾病院に勤めさせていただくことができたのは、職員の皆さんから患者さんを思う心を常に学ばせてもらっていたからに他なりません。

このたび私は病院を離れることとなりましたが、医療環境がどのように変わろうとも、道ノ尾病院の人を思いやる大切な心を、ずっと持ち続けていただけることを切に願っています。

本当にありがとうございました。

- 皆さん、ありがとうございました -

内科
北村 慎一



第67回 九州精神医療学会の報告



令和4年11月25日、26日 第74回 九州精神神経学会 / 第67回 九州精神医療学会が大分県で開催されました。今回精神神経学会は完全オンラインでの開催となり、精神医療学会で150の演題が発表されました。その中で道ノ尾病院から医療学会で4演題を発表しました。学会では九州各地の精神科領域における取り組みを聞く貴重な経験ができた事と同時に、発表を通して道ノ尾病院での取り組みを知って頂く良い機会となりました。

大分県で開催された第67回 九州精神医療学会にて院内で取り組んだ看護研究の成果を発表してきました。

他病院の発表の中にはCOVID-19に関連した研究や報告もあり、混乱や不安の中でもCOVID-19と向き合った内容に今後の課題や取り組むべき道筋に気づくことができました。またCVPPPの導入に関する研究では演者と話す機会を持ち、当院にてどのように周知していくべきか、どのように運営していくべきかのアドバイスを頂くことができました。自身の発表では介護衣解除に向けた取り組みを発表し、発表後、他病院や施設から導入に関する質問等を頂き、後日電話連絡にて説明いたしました。

今回、学会での発表や聴講にて学び得たものを活かし、自身の新たな目標に向かって研鑽していこうと思います。貴重な体験をありがとうございました。

看護部 看護師 久保 乃也

令和4年11月24日と25日に開催された、第67回 九州精神医療学会で、統合失調症患者の身体機能と嚥下機能の関連性を検証した研究を発表させていただきました。質疑応答を通して、自身が気づいていなかったこと等を指摘していただき今後に繋がる発表となりました。

また、少数ではありますが理学療法士の発表もあり興味深く聴講させていただきました。同じ精神科で働く理学療法士がいることを知り、今後の研究活動への意欲向上にも繋がりました。

他分野の研究発表も聴講させていただき、最近の精神科医療の動向を知ることが出来たのはとても大きな学びとなりました。

コロナ禍で、現地開催の学会に参加するのは数年ぶりとなりました。感染対策に注意しながらでしたが、実際に顔を合わせてディスカッションすることの大切さを改めて感じました。

今回、学会発表を行うにあたり、ご協力いただいた患者様、ご指導くださった皆様に感謝申し上げます。

リハビリテーション科 理学療法士 坂井 孝行

この度、第67回 九州精神医療学会へ参加させていただきました。

私が取り組んだ研究テーマは「褒め」にフォーカスした声掛けが、人の動機付けにどのような影響を与えるのかをコンセプトにしたものです。

学会では九州内から目標を同じくする多くの看護師が参加され、その研究意識・質の高さからモチベーションアップへ繋がりました。また、これまで自分の研究にこもりがちでしたが、様々な研究を聴講することで同じ専門分野においても幅広い視点から動向の知見が広がったことに、学会参加への有益性を感じました。

この学びを更なる研究発展と自身の成長に繋げる為には、日々問題意識と学ぶ姿勢を持ち看護に努めることが強く求められると認識します。

おわりに

今回、2度に渡り開催中止となっていた学会への参加をご承諾いただいたこと、またそこに至るまでご指導いただいた小委員会の方々、病棟スタッフの皆様へこの場をお借りして感謝申し上げます。

看護部 看護師 石橋 祐一

今回、大分県で2日間開催された、第67回 九州精神医療学会へ参加し発表させていただきました。

前回は共同研究者という立場で、今回は発表者という立場で参加させていただきました。

コロナ禍という中で他病院の発表を聴講し、自身の知識を広げる事が出来ました。

今回の様な大多数の方が参加される学会へ参加する事は初めてでしたが、今後もこのような機会を増やし、自分のスキルアップに繋がれたらと思います。

また、それが自身の看護観の向上に繋がり、今後の看護へ活用出来たらと思います。

看護部 看護師 福井 留美

第16回日本腎臓病薬物療法学会に参加して

10月29日、30日に開催された第16回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会に参加したのでご報告いたします。新型コロナウイルスの流行により、この2年間の徳島大会と横浜大会はweb開催となりましたが、今年は、第13回の熊本大会（新星Vol.33で参加報告の記事を掲載）以来の現地開催となり、会場は開業したばかりの出島メッセ長崎でした。

今回の長崎大会のスローガンは「医は仁術、薬は“腎”術 ～西洋医学発祥・薬業連携先進の地より～」であり、病院の薬剤師と調剤薬局の薬剤師の連携（薬業連携）が一つの大きなテーマとなっていました。地元開催ということもあり、長崎で活躍されている先生方の発表をたくさん聞くことができ、大変参考になりました。当院は2021年10月より外来患者さんの薬を院内処方から院外処方へと切り替えたため、今後も調剤薬局の薬剤師と連携を図り、安全で適切な薬物療法に尽力していきたいと考えています。その一つのツールとして、新星Vol.42でも紹介したCKDシールを当院でも積極的に活用していきたいと考えています。CKDとは慢性的に腎機能が低下している状態のことで、図1のようにお薬手帳にCKDシールを貼付することで、検査値を把握することができない調剤薬局でも腎機能に留意することが可能となります。今大会では、各地域でのCKDシールの取り組みの紹介や総合討論もあり、その有用性と問題点を把握することができました。長崎県のCKDシールの取り組みについては、長崎県のホームページに詳しく掲載されていますので、ご興味があればご覧ください。

今大会は微力ながらも実行委員として参加したため、慌ただしく会場を移動することがありましたが、当院の業務に活かせるような発表では、質疑応答で質問をしたり、ポスター発表の会場では、当院と同じように高齢の患者さんが多い病院の薬剤師と意見交換をしたりと、web開催では味わえない現地開催ならではのライブ感を味わうことができました。当院は腎臓病の専門病院ではありませんが、年齢を重ねると腎機能は徐々に低下していくことがあります。そのため、私達

薬剤師には患者さんの腎機能に応じた適切な薬物療法の知識がもたえられることから、今後も自己研鑽に励み当院の薬物療法に貢献したいと思います。

最後に、掲載している写真は、大会長を務められた長崎腎病院の江藤先生と実行委員長を務められた光晴会病院の成末先生を囲んで、実行委員の先生方と一緒に閉会式で撮ったものです。今後に関わる貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

薬剤師 洲上 朋一



◆CKDシールを貼るメリット◆

☞腎機能が低下しているという情報を、医師や病院薬剤師、調剤薬局の薬剤師が共有でき、腎機能に応じた安全な薬物療法を行うことができます。

☞緊急時や災害時に、医師や薬剤師が腎機能の低下を把握することができます。

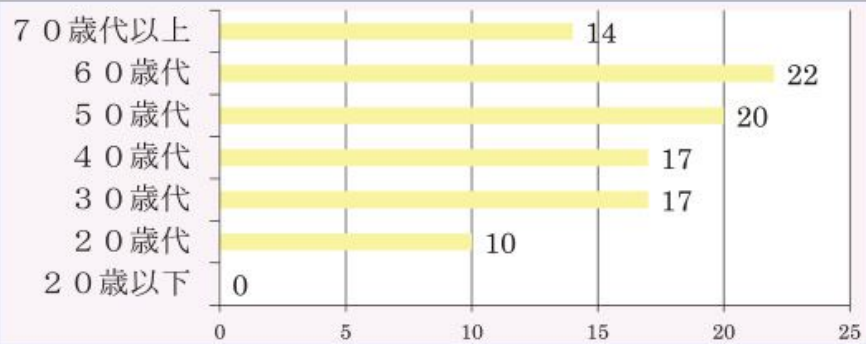


図1

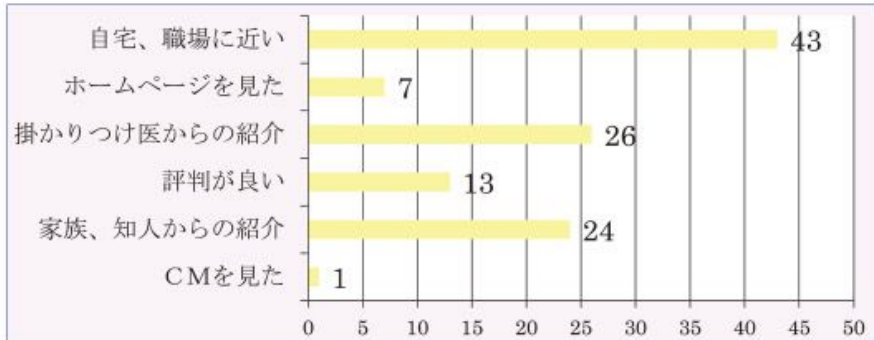
第14回 満足度調査結果報告

令和4年度満足度調査を実施しました。今回の結果をふまえサービスの向上と、よりよい医療の提供を目指したいと思います。今回はコロナ禍に伴い、コロナ関連の項目を追加させていただきました。詳しくはホームページに掲載しております。ご協力ありがとうございました。

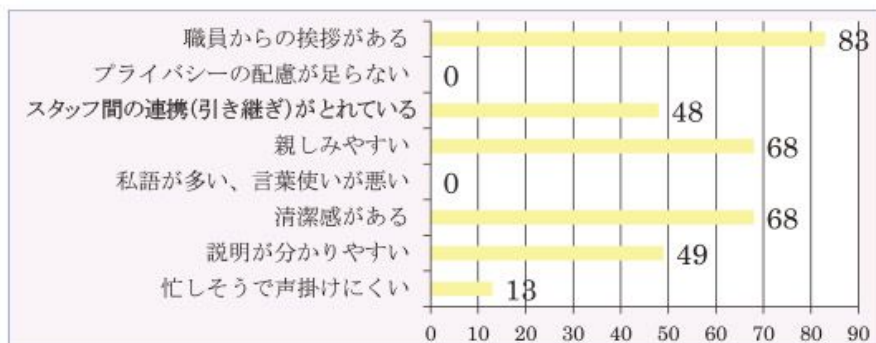
年齢別



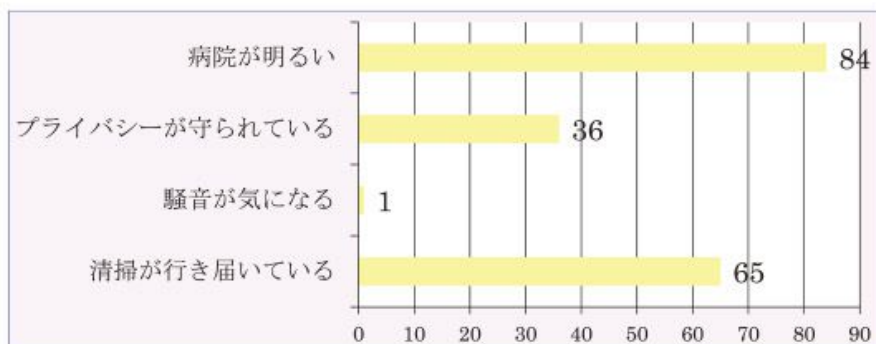
当院を選んだ理由は？



職員の印象について



待合室の印象について



Day care Event

デイケアの行事について

秋のお茶会

さわやかな秋晴れの元、10月21日にデイケア棟裏の駐車場で秋のお茶会を開催しました。

感染対策の為、グループ別で実施しています。

ススキや山で拾った栗で秋の景色を作り、職員手作りの栗大福とお抹茶を堪能しました。

栗大福はデイケアメンバーにとっても好評でした。



あぐりの丘 コスモス散策

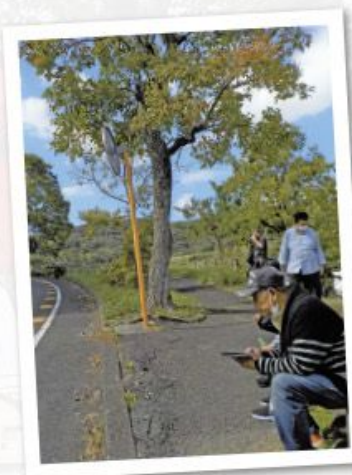
10月25、26日の二日間にわたって、毎年恒例のコスモス見学に出かけました。

あぐりの丘まで歩くウォーキング班と、マイクロバス送迎班に分かれました。

ウォーキング班にはメンバー7名、スタッフ3名が参加。

約1時間半掛けて歩き、秋の景色を眺めながら、全員無事にあぐりの丘に到着しました。

コスモスは満開で天候も良く、コロナ禍でなかなか外出できない中とても良い気分転換となりました。



免疫力を上げて冬を乗り切りましょう！

体が冷えやすい冬は、免疫力や抵抗力が低下しやすく、風邪や感染症にかかりやすくなってしまいます。食事で「免疫力」を高め、風邪に負けない元気な体を作りましょう。ここでは、免疫力を高める食事のポイントをいくつか紹介します。



～免疫力を高める食事のポイント～

①体を内側から温める

体温が1℃下がると免疫力は30%も低くなるといわれています。体の冷えは免疫だけではなく、さまざまな不調を引き起こす原因の一つとなっています。

食事の時には温かい汁ものを取り入れたり、それ以外の時間も温かい飲み物を飲むなど、体を冷やさないように意識しましょう。

②緑黄色野菜や果物を積極的に食べる

緑黄色野菜や果物は多くのビタミンを含んでいます。ビタミンの中でもビタミンA、C、E(ビタミンACEと覚えましょう!)は特に多く、これらは免疫力向上に効果があります。ビタミンA、C、Eは単独でも効果を発揮しますが、組み合わせるとお互いに作用し、効果を高め合うのが特徴です。

緑黄色野菜を取り入れると食卓も鮮やかになりますので、単独ではなく、ぜひ色々な種類の野菜や果物を使ってください。

ビタミンA：強い抗酸化力で喉や鼻の粘膜の健康を保ち、ウイルスの侵入を防ぐ働きがあります。人参、モロヘイヤ、レバーに多く含まれています。

ビタミンC：血管や粘膜を丈夫にしてウイルスの侵入を防ぐ働きがあります。また、体内に入ってきたウイルスを排除する役目がある白血球の働きを助けて、免疫力を高める働きがあります。果物(中でもイチゴに多い)、赤パプリカ、ブロッコリー、ジャガイモ、サツマイモに多く含まれています。

ビタミンE：優れた抗酸化作用があり、免疫機能を高める働きがあります。また、ビタミンCと一緒に摂取することで、さらに抗酸化作用が高まります。卵、かぼちゃ、落花生、アーモンド、マーガリン、植物油に多く含まれています。

③発酵食品を積極的にとる

発酵食品は腸内環境を整える働きがあり、免疫細胞を活性化させることで免疫力が向上する効果も期待できます。

ヨーグルト、チーズ、みそ、ぬか漬け、キムチなどの発酵食品を毎日の食事に取り入れると効果的です。

食事に気をつけるだけではなく、適度に運動したり十分な休養を取ったりすることも大切です。体にいい生活習慣を無理せず継続し、今年の冬を健康に乗り切りましょう。



©2018 VVN

道ノ尾病院はV・ファーレン長崎を応援しています



医療法人厚生会

- 道ノ尾病院 ○虹が丘病院
- みちのおメンタルクリニック
- 宿泊型自立訓練事業所 ふれあい
- 就労継続支援B型・就労移行 ワークステーションかいこう
- 訪問看護ステーション すみ香
- ヘルパーステーション にじいろ
- 相談支援事業所 にじいろ ○居宅支援事業所 にじいろ
- れいんぼうハウス滑石 ○住宅型有料老人ホーム ほの香

社会福祉法人新生会

- 障害者支援施設 虹が丘学園
- 特別養護老人ホーム 望星荘

【医療法人厚生会 道ノ尾病院ホームページ】

<https://www.michinoo.or.jp>

道ノ尾病院

検索



モバイルの方



スマートフォンの方



パソコン・スマートフォン向け

道ノ尾病院 新着情報通知のお知らせ

道ノ尾病院HP上に出るポップアップを通知許可していただくと以降、新着更新情報をプッシュ通知で受け取ることが出来ます！

パソコンやアンドロイド端末はアプリ不要で直接プッシュ通知を受け取ることが可能です。

*iOS端末(iPhone・iPad)は「みんなのお知らせ」アプリをインストールし、お知らせ通知を許可するだけで以降、直接プッシュ通知を受け取ることが可能です。



通知許可ボタン表示